

第5回経済統計ワーキンググループ 議事概要

1 日 時 平成29年8月9日（水）9:55～11:20

2 場 所 合同庁舎4号館 1208特別会議室

3 出席者

【委員】

川崎 茂（座長）、河井 啓希、中村 洋一

【審議協力者】

総務省統計局、財務省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、日本銀行、千葉県、京都府

【事務局（総務省）】

横山大臣官房審議官

統計委員会担当室：山澤室長、肥後次長、吉野調査官

政策統括官（統計基準担当）：澤村審査官、宮内企画官、松室補佐

4 議 事

- (1) 第3次産業活動指数
- (2) ワーキンググループの中間取りまとめ
- (3) その他

5 議事概要

(1) 第3次産業活動指数について

事務局、経済産業省から資料1-1及び資料1-2に基づき説明された後、質疑応答が行われた。

主な質疑は、以下のとおり。

- ・第3次産業活動指数の有用性の更なる向上を継続的に図ることに同意する。現在作成に使用されている統計データ以外の業務統計やインターネット上のデータソースの活用を図れないか検討を行っているか。また、具体的な精度向上方策として、供給側統計ではなく需要側統計や労働統計を代替して推計している系列について、推計結果の付加価値と、代替している需要側統計や労働統計との変動がどの程度かい離しているかチェックしているか。例えば、廃棄物処理業の生産活動は、労働統計のインプットをベースにアウトプットを推計しているが、労働の貢献がアウトプットとどの程度リンクしているのか。
- 需要側統計や労働統計とのチェックは、基準改定の際に基準数量を精査をしているが、例えば、廃棄物処理業について、毎月数値を公表しているのは毎月勤労統計調査以外にないため、使用せざるを得ない。廃棄物処理量に関しては、一般廃棄物は各市区町村が、産業廃棄物は環境省が公表しているが、年単位であるため、月次の

使用が難しい。他のデータとしては、業界統計や業界の代表的な企業のIR情報を利用して。また、毎月データをいただいている独立行政法人等もある。

- ・総務省のサービス産業動向調査を第3次産業活動指数で活用していくのが改善に向けた一つの方策ではないかと考えるが、同調査で公表されている業種の標章区分では、第3次産業活動指数の作成には不十分なのか。
- サービス産業動向調査結果を使用していない理由としては、一つは御指摘のとおり、業種分類が細分化されていないことである。加えて、大幅な調査方法等の変更によりサービス産業動向調査結果の時系列に大きな断層が生じているため季節調整がかけられないことや公表時期の問題がある。
- ・第3次産業活動指数はかなり細かく集計されているため、精度向上が難しいとは理解しているが、精度向上については検討していただきたい。特に、金融については、利用しているマクロ指数が、活動レベルを表すのか。また、供給側統計に代替して需要側統計を使用することについては、サービス産業では、生産と消費の同時性もあるため、問題としては小さいのではないかと。今後のサービス産業統計の整備の動向を踏まえ、部門分類やデフレーターという大きな課題については、時間をかけて抜本的に見直す必要があるだろう。
- ・第3次産業活動指数の精度向上には、各府省の一次統計に生じている諸課題の解決が必要である。サービス産業統計の統合、拡充については、統計局と協力して進めているところであるが、全体的な諸課題の解決に当たっては統計委員会のリーダーシップのもと、関連統計データの整備が重要である。
- 議論を踏まえると、基幹統計化よりも有用性の向上に努めるとしたほうがよいのではないかと。このため、「第3次産業活動指数について、作成の基礎となる関連統計調査の整備、改善状況を踏まえつつ、行政記録情報や民間データの活用を含め、更なる有用性の向上に努める。」などと整理してはどうか。

《座長のまとめ》

- ・基幹統計化は難しいと分かったもののサービス統計の体系的な整備において重要な位置付けであることから「次期基本計画における取扱い（案）」は、（案）どおりとする。「同基本的な考え方（案）」は、関連統計の整備状況を踏まえつつ行政記録情報や民間データの活用を含め有用性及び精度の向上には引き続き努めることをベースに整理する。

(2) ワーキンググループの中間取りまとめについて

事務局から資料2-1に基づき取りまとめの構成案について、資料2-2に基づきこれまでの審議結果について説明された後、質疑応答が行われた。

主な質疑は以下のとおり。

- ・「経済センサス-活動調査を用いた農林業センサスの分析」において、ペンディングとなっているものの取扱いはどのようにするか。
- 国勢調査等の情報の活用については、追加作業が平成29年度中に終了する予定であることから、進捗状況を踏まえて整理する。

→今年度中に終了予定であるため、終了した時点で報告したい。

《座長のまとめ》

・全て原案のとおり、了承いただいたということで整理したい。

(4) その他

本日の議論を踏まえ、「第3次産業活動指数」の整理メモを整理し、委員の確認を経た上で、最終的な審議結果として、川崎座長から基本計画部会に報告されることが確認された。

以上

<文責 総務省統計委員会担当室 速報のため事後修正の可能性あり>